

YOC (Young Official's Camp) 2016

参加報告書

報告者 後嵩西倭

- 期間 8月12日(金)～8月14日(日)
- 会場 埼玉県立スポーツ総合センター / 上尾運動公園体育館
- 参加者 石垣千彩(秋田県)、岩渕健介(岩手県)、武田亜沙美(山形県)、本間竜也(神奈川県)、武田理輝(群馬県)、渡邊拓人(千葉県)、薄井基(茨城県)、土屋友由(埼玉県)、佐藤香純(埼玉県)、高橋明宏(埼玉県)、清水倫人(山梨県)、後嵩西倭(東京都)、石野美紀(新潟県)、松仲文弥(石川県)、壬生朱音(長野県)、名取駿(長野県)、北川尚寛(岐阜県)、薮崎康平(愛知県)、江藤慶太(京都府)、木村健太郎(和歌山県)、片山明子(奈良県)、高塚大地(兵庫県)、上村達也(島根県)、中嶋研仁(岡山県)、北野真美子(山口県)、伊藤仁美(高知県)、玉井慎一(香川県)、宮崎洗丞(佐賀県)、上村愛美(福岡県)、山中萌衣(鹿児島県)

○スケジュール

8月14日(金) <<1日目>>

- 12:30～ 集合 【スポーツ研修センター講堂】
- 13:00～ 開講式 【スポーツ研修センター講堂】
13:20 1. 審判部長/審判委員長 挨拶
2. 講師紹介
3. 諸連絡
- 13:20～ <講義Ⅰ> 【スポーツ研修センター講堂】
16:50 「判定をするための順序とRSBQの考え方について」
講師: 平育雄氏
(更衣)
<実技Ⅰ> 【スポーツ研修センター体育館】
「動きやレポートの基本の確認」
講師: 平育雄氏
- 17:00～ 受講生各自入室、入浴 【スポーツ研修センター講堂】
- 18:00～ 夕食 【スポーツ研修センター食堂】
- 19:00～ <講義Ⅱ> 【スポーツ研修センター講堂】
20:50 ①「オリンピックでの経験を踏まえて」
講師: 須黒祥子氏
②「レフリーの立ち振る舞いとprimaryの意識について」
講師: 平育雄氏
- 20:50～ 宿泊利用説明 【スポーツ研修センター講堂】

21 : 00～	自由時間	【各部屋】
23 : 00	消灯	
8月15日（土）《2日目》		
6 : 30	起床 洗面・部屋掃除等	【スポーツ研修センター宿泊施設】
7 : 00～	朝食	【スポーツ研修センター食堂】
8 : 00～	移動・実技準備	【スポーツ研修センターフロント前より】
9 : 00～	<実技Ⅱ>	【上尾運動公園体育館】
17 : 00	高校生男女のモデルゲームを使い実技講習 講師：1班 関口知之氏、山崎人志氏、前田喜庸氏、小澤勤氏 2班 吉田正治氏、大野健男氏、安西郷史氏、平原勇次氏、加藤誉樹氏 3班 平育雄氏、須黒祥子氏、片寄達氏、北島寛臣氏	
17 : 00～	移動、入浴	【スポーツ研修センター】
18 : 00～	夕食	【スポーツ研修センター食堂】
18 : 50～	<講義Ⅲ>	【スポーツ研修センター講堂】
20 : 35	①「YOCから世界へ」 講師：加藤誉樹氏 ②「TO管理について」 講師：前田喜庸氏 ③「罪なき者を罰しない」 講師：平原勇次氏	
20 : 40～	閉講式 1. 委員長挨拶 2. 講師代表挨拶 3. 諸連絡	
21 : 00～	研修時間	
23 : 00	消灯	
8月16日（日）《3日目（最終日）》		
6 : 30	起床 洗面・部屋掃除・片付け（各自荷物整理）	【スポーツ研修センター宿泊施設】

7:00～ 朝食

【スポーツ研修センター食堂】

7:50 各自荷物は8:10までに一旦講堂前に移動

7:50～ 部屋点検

移動・実技準備

9:30～ <実技Ⅲ>

【上尾運動公園体育館】

14:00 高校生男女のモデルゲームを使い実技講習

各自帰りの交通機関にあわせて随時解散

講師：1班 関口知之氏、山崎人志氏、前田喜庸氏、小澤勤氏

2班 吉田正治氏、大野健男氏、安西郷史氏、平原勇次氏、加藤誉樹氏

3班 平育雄氏、須黒祥子氏、片寄達氏、北島寛臣氏

○講義内容及び感想

<講義Ⅰ> 「判定をするための順序とRSBQの考え方について」

講師：平育雄氏

プレイを見て、そのまま直ぐに判定を行うことは難しく、判定を行うにはオフボールプレイの始まりから捉え、どのようなプレイを行うかイメージをし、プレイの終わりを「良いアングル」で見るとお話をいただきました。また、明らかなファウルを逃したり、明らかに正当なプレイを吹き上げてしまうことがある。そういった、明らかな判定のミスをしたためにもブラインドの位置から判定をせず、判断できるプレイについてのみ判定する習慣をつけるようにしようとおっしゃっていました。そのためにもprimary(常にカバーできなければならない責任エリア)を意識して、自分のエリアから始まるプレイに責任を持ち、ファウルやヴァイオレーションが起こっていないことを一つ一つ確認しに行くことが必要だなと感じました。そして、講義の中でハンドチェックとポストプレイ、アンスポーツマンライクファウルが起こる状況を別の講師の方とともに実演してくださいました。そのときにRSBQ(リズム・スピード・バランス・クイックネス)と瞬間的に手を触れたことによってRSBQが妨げられたらファウルであるという考え方を説明してくださいました。このRSBQが妨げられたが吹かれず、逆にこちらがしてしまった時に吹かれるといった不公平感が生まれることがある。不公平感を無くすためにも細かく動いて良いアングルを捉え続けることが必要であると感じました。

<講義Ⅱ①> 「オリンピックでの経験を踏まえて」

講師：須黒祥子氏

講義Ⅱ①では須黒祥子氏からオリンピックでの経験を踏まえて、チャンスが与えられた際にどうパフォーマンスするのか、「～になりたい」という自分の意志に対してどんなビジョンを持つのか、レフリーに対して具体的な目標を持ち続けることの重要性をお話いただきました。そこで須黒氏は具体的に、吹くときは1万人の観客がいると想像して、笛は強く吹き、動作を大きくし、ファウルやヴァイオレーションを吹いたら必ずゲームクロックと相手審判を確認すること、ゲームクロックとショットクロックをセットで覚えることを意識しているとおっしゃっていました。講義を受け、私も何をやったらいいのかを整理し、それをやり通すことを意識していきたいと思います。そのためにも基本的なことをやり続けていこうと考えました。

<講義Ⅱ②>「レフリーの立ち振る舞いとprimaryの意識について」

講師：平育雄氏

平育雄氏はレフリーとしての毅然とした立ち振る舞いをする事、決断力、信頼感、コミュニケーションの必要性をおっしゃっていて、判定も大事だが、人に見られている人に見せるということも意識してみると自信をもって臨むことができるとご指導を受けました。また、リードレフリーはまずセットアップポジションに移動し、必要に応じてクローズダウンをして準備をしていつでも右に行けるように準備しておくことをおっしゃっていました。そこで、リードレフリーが右へ行くと4番エリアがどうしても判定しにくくなってしまいます。しかし、4番エリアはリードレフリーのprimaryであるので常にカバーできるように体の向きや見方を考え、常に戻れるように確認を怠ってはならないと考えました。

<講義Ⅲ①>「YOCから世界へ」

講師：加藤誉樹氏

目標を達成するには本人の努力は必要だが、それ以上に周囲の理解・協力が必要であり、それは掛け算のようになっており、決して自分一人ではできないということをおっしゃられました。周囲から認めてもらうには、講義Ⅱでもあったような見た目もそうだが、須黒氏がおっしゃっていた基本的なことをやり続けることも必要であると感じられた。また、なりたい自分になるために、今の自分を振り返り、なりたい自分から現在の自分を引き算して考えて取り組むべき課題を見つけようのご指導をいただきました。そして、「ABC」の「A：あたりまえのことを」「B：馬鹿みたいに」「C：ちゃんとやる」ということで、これらを毎日コツコツ積み重ねていくことが大事であるとおっしゃられました。そして、最終的に「大事な場面で誰からも納得してもらえそうなレフリーをする」ことが大切であるとおっしゃられました。やはり、基礎基盤が大切であり、いかにそれを妥協せずに取り組んでいけるかということが良い判定に繋がるのではないかと感じました。

<講義Ⅲ②>②「T0管理について」

講師：前田喜庸氏

前田喜庸より、T0管理についてお話をいただきました。会場設営においてショットクロックの向きが違っていたり、大会によってベンチの数が違っていたりするということをおっしゃっていた。また、ウインターカップやインターハイでのケースを例に話して下さり、ショットクロックが戻るべきではない時に戻ってしまい、オフェンスが有利になってしまったことや、少しの失念が原因で勝敗に大きく関わってしまうことをおっしゃっていて、T0主任がミスを未然に防ぐことの大事さをご指導いただきました。そして私は、普段の練習試合からT0管理の練習をしていこうと感じました。

<講義Ⅲ③>③「罪なき者を罰しない」

講師：平原勇次氏

平原勇次氏は今自分が頑張っているのは、周りの人達のおかげであるということ、評価してくれるのは自分ではなく、周りの人であるということをおっしゃっていました。また、「罪なき者を罰しない」ということをおっしゃられていました。そうになってしまうのは確認が甘いことと自分が妥協をしてしまうからであると私は考えました。それを防ぐためにも4原則に従って細かく良いアングルを探し続けていこうと考えました。

<実技Ⅰ>

①会場準備

②セットアップポジションで判定

- ・しっかり止まって判定をすることを意識する
- ・スコアラーに分かりやすく伝える

③セットアップポジションからクローズダウンして判定

- ・止まって判定を行う

④バックコートからのトレイルの追従

- ・ショットクロックが動いているのかどうかを確認する

⑤リバウンドからのニュートレイルとニューリードの動き方

- ・ニュートレイルの位置を把握し、間に合っていない場合はニューリードが少し受けて待つ

⑥3人組を組み、講義Ⅰのファウルの確認

<実技Ⅱ>

高校生男女のモデルゲームを使い実技講習

講師：3班 平育雄氏、須黒祥子氏、片寄達氏、北島寛臣氏

①対象：高校生男子 小山台 ー 都立足立 (R：江藤慶太(京都府) U：後嵩西倭(東京都))

担当講師：北島寛臣氏

【頂いた反省】

・トレイルレフリーとリードレフリーの協力

ボールが中心となり、相手審判の位置が確認できていないため、エリア1の45度にボールが入った際に右に来てしまっているとご指摘をいただきました。

・接触の責任と影響

ボールを保持した時にハンドチェックによるファウルが起きたが、それによるトラベリングを吹いてしまったとご指摘をいただきました。

【感想】

ご指摘を頂いた通り、ボール中心となってしまっていたため、周辺を捉えられていませんでした。これではディフェンスがどこから来たのか、どこに位置していたのかなどの情報が薄くなることがありました。そのような場合には、接触があればディフェンスのファウルで取り上げがちになっていると思うため、しっかりとプレイの始めから把握することと、ボール中心にならないようにしなければならぬと感じました。

②対象：高校生男子 小山台 ー 越谷西 (R：後嵩西倭(東京都) U：武田理輝(群馬県))

担当講師：片寄達氏

【頂いた反省】

・オールウェイズムービング

3番エリアのダブルチーム時などもっと細かく動いて良いアングルを捉えに行った方が良いとご指摘をいただきました。

・ゲームクロックとショットクロックの確認

隣のコートからボールが転がってきてしまい、途中で止めざるを得なくなったのだが、そのときお互いがショットクロックとゲームクロックを確認できていなかったため、笛を吹いた際にクロックの確認を、より気をつけて習慣付けしなければならないとアドバイスをいただきました。

【感想】

須黒氏がおっしゃっていたゲームクロックとショットクロックをセットで覚えようと思う結果でした。片寄氏に声をかけてもらいながら動いていたら、良いアングルを捉えることができることがあった。そのため、もっと4原則を意識して情報収集を行おうと考えました。

<実技Ⅲ>

高校生男女のモデルゲームを使い実技講習

講師：3班 平育雄氏、須黒祥子氏、片寄達氏、北島寛臣氏

①対象：高校生男子 朝霞 ー 都立足立 (R：岩渕健介(岩手県) U：後嵩西倭(東京都))

担当講師：須黒祥子氏

【頂いた反省】

・オートマチックな移動

リードにいるとき、ボールが右にいったからと右のサイドへ行ってしまったため、オートマチックに動いているとご指摘を受け、ボールとその周辺の情報収集を怠らず、よく観察を行った方が良いとアドバイスをいただきました。

・ブラインドの危機感が足りない

トレイルでの追従の際にブラインドになってしまっている状況が多く、何もないことを確認しにブラインドの状況をなくしたほうが良いとご指摘をいただきました。

【感想】

相手審判の位置を把握できておらず、自分のエリアで精一杯になってしまい、ボールに振られてしまう結果になってしまいました。また、須黒氏より動きすぎとご指摘を受け、私は動きすぎに見えてしまうほど、ボールに振られていたのだなと感じました。そのため、ボールに振られるような動きは少なくし、primaryを意識してスペースを捉えるための動きをしようと思いました。

②対象：高校生女子 上尾鷹の台 ー 柏井 (R：後嵩西倭(東京都) U：名取駿(長野県))

担当講師：須黒祥子氏

【頂いた反省】

・トレイルレフリーとリードレフリーの協力

一試合目よりも考えて動けていたと言ってくれた。相手レフリーに自分のエリアを吹いてもらい、そして私も相手が見づらいリバウンドファウルを取り上げることができました。助けてもらったときは吹いてもらえたとポジティブに捉えて切り替えたほうが良いとアドバイスをいただきました。

・オートマチックな移動

トレイルレフリーの際にロングシュートが行われたため、オートマチックにフリースローラインの延長あたりまできてしまっており、そうではなくどのプレーヤーがリバウンドに絡みそうかを確認してからそこを中心に周辺を見たほうが良いとアドバイスをいただきました。

【感想】

一試合目のアドバイスを基に、より振られる動きを少なくし、ボールの周辺から情報を収集しイメージをしようとした結果、良いアングルで捉えることができました。ですが、相手レフリーの方に笛で助けていただくこともありました。一人で審判をするのはできないため助け合うのは当然だが、吹けなかったことを気にしすぎてしまいました。反省で須黒氏からポジティブな思考に切り替えて、引きづらないようにとおっしゃっていただきました。そのため、自分の中で切り替えを早くし、次のプレイの準備をするように心がけたいと感じました。

<全体の感想>

今回YOCに参加し、強く感じたことは基礎の大切さです。審判が行うシグナルや判定を行ううえでもとになるルールはマニュアルとルールブックで共通理解されています。講義Ⅲで加藤氏がおっしゃっていたように「ABC」を意識して、マニュアルをしっかりと理解し、自分に身に付けること。それが自分の判定に繋がってくることを実技や講義を受ける中で感じました。

そしてこの3日間で明らかになった私自身の課題として、「primaryの意識」、「プレイを長く観察する」ことが自分の課題であると考えています。まだまだ、克服すべき課題はたくさんあると思いますが、一つ一つ確実に克服していきたいと感じました。又、全国から同年代の審判員が集まることでとても刺激になりました。共感できる点、優れているなどと思う点、判定力だけでなく、コミュニケーション能力や人間性など3日間で短い期間ではありましたが、共に生活することで様々なことを考えるきっかけになりました。

今後は、この貴重な経験をしっかりと生かし、夢や目標に向かってしっかりと精進して行こうと強く感じました。

最後になりますが、今回のYOC参加にあたり、関係して下さった日本協会、総務の方々をはじめとする講師の方々、連盟の方々など深く感謝し、参加報告とさせていただきます。ありがとうございました。